

優秀賞

僕の手

八尾市立亀井中学校 二年 平岡 佑絃
ひらおか ゆいと

僕は障害者差別について考えていきたいと思えます。なぜなら保育園や学校で車いす体験などを通して考えたことがあるからです。

僕は実は左手に障害があります。僕は生まれつき手が小さく左手の小指の骨が成長していないので第二関節がないのです。

日常にはほとんど影響のない障害です。ところが小学校の図工の時に左手の型を取りなさいという授業がありました。代表に指名されて黒板に自分の手の型をとり、その時初めて自分の手に第二関節がないことがクラスの人々に知れ渡った、という出来事があったのです。その時はとてもドキドキしていました。しかし、クラスの人々は冷やかすことなく書き終えた僕に拍手をしてくれました。

僕の学校の友達は、みんな優しい人でいじめに発展しませんでしたが、あとき冷やかされたり、いじめになっただけで僕は今、学校に通えていないかもしれません。

僕は第二関節がないという自分で思うに軽い障害です。しかし、重い障害のある人はどんな苦労があるのでしょうか。小学校、中学校と障害のある人について勉強する機会がたくさんありました。その中で心に残ったのは車いす体験です。

自分達が普段普通に越えている段差が車いすの人の視点から見るととても怖いものに見えました。実際にこういった体験をすると、スロープは車いすの人には欠かせない大切なものだとこのことを改めて感じました。

しかし車いすの人がじゃま者扱いされているのを見ると胸が痛みます。例えば、車いすの人が電車に乗ろうとしている時に、後ろで待っている人が、

「はやくしろよ。遅いなあ。」

とわざと聞こえるように言っているのが聞こえてきました。なんて心の狭い人なんだと思いました。

はやくしろ。とののしるのは簡単ですが、
「手伝いましょうか？」

と優しいその一言をかけるだけで、もっと簡単に車いすの方も、自分も、電車に乗ることができます。しかもそれだけでなく手伝った本人、手伝ってもらった障害のある人、そして周りにいる人でさえも和やかな気持ちになれると思います。

車いすの人が周りに気をつかうのではなく周りの人が車いすの人のために気を配ることによって障害のある人でも楽しく安心して外出することができると僕は考えます。

障害があるからといって避けるのではなく、障害のある人と共に協力し手助けをしなければいけないのではないのでしょうか。タクシーに乗りたいのにタクシーに車いすを乗せられないからと避けるのではなく、車いすの人が安全に乗り降りできるようにサポートをする必要があります。実際にバスは、そうして車いすの方でも乗り降りしやすいように工夫されていると聞いたことがあります。

社会にでると、まだまだ僕が驚くぐらいたくさんの差別に苦しむ人達がいることを知りました。障害のある人も、仕事はできるのに障害があることを理由に就職を断る会社があったり、障害のある人が人より少しやる事が遅いというだけで、会社をやめさせられることがある。など、調べればいくらでもこんな風に不当な差別の状況が目当たりになりました。

障害のある人達は僕の思っている以上にひどい差別をうけているのかもしれないと思います。でも優しさや心がけて障害のある人への差別は少なくなっていくと思います。

僕は大阪府立大学工業高等専門学校に進学したいと思っています。その理由の第一に障害のある人や身体はどこか不自由な人達の助けになるようなロボットを作りたいということがあります。でもロボットをつくる前に困っている人を助けたり、そのロボットを使う人の気持ちを考え、理解を深めることが重要だと思っています。少しでも普通の人と変わらない生活を送ることができるように障害者に対する知識と理解を深めていこうと思います。